



つるがしま里山サポートクラブ 通信

第3号
2021. 04. 01
発行責任者
小澤邦彦
編集責任者
杉山行汪

第20期を迎えるの当たって 代表理事 小澤 邦彦

NPO 法人つるがしま里山サポートクラブは20年目を迎えることができました。

2002年に市の呼びかけで高德神社の市民の森に集まった仲間達がNPOを設立して、子供達に地域の里山を残していきたいとの想いで活動して参りました。20年と言えば、子供が成人するまでの時間です。当時の私達の身体は確実に衰えましたが一方で子供達は、今では中堅のサラリーマンです。振り返って、この20年を思い起こすと楽しい時間の思い出です。共に活動をしてきた仲間達に感謝です。この間、当初の会員の平均年齢は54歳であったものが現在では73歳と、クラブの歴史と共に高齢化が進んでいます。里山を次の世代へ継承していくためにも、クラブの世代交代が課題となっています。

最近、子供の頃に里山の活動に参加し、今はパパやママとなって子供を連れてきてくれる家族も見られ、市民の森による里山の活動による地域のつながり、親子の絆等、少しずつ、里山の自然を通じた絆のありがたさを感じています。

コロナ禍の中で、改めて地域の仲間達が存在することのありがたみを感じる今日この頃です。

里山を子供達に残していくためには、市民、行政、企業の方々の連携や活動が不可欠です。

「親が変われば、子供が変わる、子供が変われば未来が変わる」と言う言葉を信じて、これからも活動を楽しみたいと思っています。この通信をご覧になっている皆様、年寄りと子供が無邪気に遊んでいる「市民の森」へ遊びに来てみませんか。

「里山サポートクラブもろやま」の紹介 小澤 弘

私は2012年に62歳で会社を定年退職し、その年から毛呂山町にある「出雲伊波比神社」（私の自宅のすぐ隣）の氏子総役員になりました。当時、神社の南側（毛呂山小学校側）の竹林が手つかず状態で竹が重なり合って困っていました。

翌年の2月に竹林を間伐することになり、間伐材を何かに利用できないか？考えました。

たまたま新聞で「NPO法人つるがしま里山サポートクラブ」さんが、竹を気仙沼のカキの養殖イカダに持って行くと掲載されていたので、事務局長の吉井優さんに連絡したところ、快く協力の返事をいただき、竹伐り当日は、「つるがしま里山サポートクラブ」のメンバーも参加して呉れました。

それが縁で、つるがしま里山サポートクラブの活動の話を聞けば、東日本大震災後には現地にメンバーが行き、橋を作る手伝いをしたとのこと、普段は鶴ヶ島市内にて里山の整備や森の体験会などを行っていること等々。私は早速準会員になりました。

活動に参加して、地域の他グループとの協賛や子供たちの楽しそうな姿を見るにつけ、子供たちに森の大切さを教える楽しさを実感しています。また森の整備で使用するチェーンソー、刈り払い機、ウッドチップパー、ハンマーナイフ等の扱いにも慣れてきました。器具の整備については現役時代の知識が役立って活躍中です。いつか毛呂山にもこのようなグループを作りたいと考えてきて、2020年月2月8日に「里山サポートクラブもろやま」を私が会長になって立ち上げました。発足会には理事長の小澤邦彦さんと吉井優さんに出席していただき、イベントが重ならなければ備品もお貸ししますよとの有難いお言葉をいただきました。「里山サポートクラブもろやま」も17名のメンバーで大類の森の整備を、20年度は7回実施し、2021年5月には森のプレーパークを予定しています。これからも二つの里山サポートクラブを掛け持ちで楽しく頑張っていきたい。



1月、2月、3月の主な活動

1月活動

1月は高倉市民の森にて森の整備と新年会を行いました。毎年1月の第1回は、ご神木にお神酒をささげ、今年1年間の無事を祈願します。またお汁粉で新年会を行うのも年中行事となっています。

また冬場に恒例となっている木工活動も行いました。森設置用のテーブルと、竹細工用置き台をつくりました。



2月活動

2月は五味ケ谷市民の森竹林整備と、北側雑木林の下草刈りを行いました。門松作りで残した竹をチップーできれいに処理できました。

小彼岸桜の根巻作業91本完了、農大跡地などに植樹します。



3月活動

3月は木工活動にて2台目の市民の森テーブルを作りました。高倉の里山体験会は、コロナの緊急事態宣言が延長されたため中止になりました。中止を知らずに来場した家族のため、ハンモックや焼き芋で対応しました。



1月～3月 実施

- 1/9(土) 高倉市民の森 整備と新年会
- 1/17(日) 木工教室
- 2/6(土) 五味ケ谷市民の森、竹林&林整備
- 2/14(日) 小彼岸桜根巻作業
- 3/6(土) 木工教室
- 3/14(日) 高倉市民の森整備

4月～6月 計画

- 4月予定
 - 農大跡地桜植樹
 - 挿し木の小彼岸桜桜定植
 - 五味ケ谷市民の森整備
 - タケノコ掘りイベント
- 5月予定
 - タケノコイベント
 - 小彼岸桜新芽採取挿し木
 - 高倉市民の森整備
 - 大谷川清掃大作戦
- 6月予定
 - 高倉里山体験会
 - 藤金市民の森整備
 - 農大跡地森林整備

農業大学校跡地の公園に 小彼岸桜を植樹

農業大学校跡地は、事業所、公園、スポーツ施設等に生まれ変わります。これを記念して4月3日に記念式典が行われます。当クラブが育てた小彼岸桜が市長により植樹されます。

会員紹介

吉井 優さん

20年前の在職時は、私はISO14001(環境マネジメントシステム)の維持管理を担当していました。2002年に市役所から市民の森整備募集があり、対象に市民と企業が含まれていたため、企業として参加しました。2003年から「NPOつるがしま里山サポートクラブ」が発足すると、行政・市民・企業が協力する特徴ある団体として認識され、私は事務局業務を担当することになりました。その後、勤め先が業績不振でなくなり、早期退職してNPOの専任となり今に至っています。

私にとって、里山クラブ18年で最大のハイライトは、2016年に作業中に心筋梗塞で倒れたことです。事件前後の数週間の記憶が抜けていますが、心肺停止状態で1時間くらい過ごしていたようで、普通、脳に障害が残るそうです。私が倒れた直後から、NPOのメンバーが心臓マッサージと、人工呼吸をしてくれたそうです。これにより脳に酸素が送られ奇跡的な生還となりました。メンバーは命の恩人です。最大の感謝を捧げます。



里山サポートクラブの活動に体験参加した学生のレポートです。

地域ボランティア論 城西大学学生 湯本健琉

日時 12月5日(土) 9時開始～12時終了 場所 鶴ヶ島東市民センター 五味ヶ谷市民の森

団体名 里山サポートクラブ

活動内容：竹の伐採、昼食兼忘年会

自分は、12月26日に同場所で開催される門松教室の材料として用いる、竹の伐採作業に参加しました。竹の伐採を行う前に、五味ヶ谷市民の森について案内をしていただきました。雑草や竹の整備、森の一部を使用したなめこ栽培、タラの芽や南天などの植物を保全し収穫、木々を使用したレジャー体験の実施を主な活動としていて、他の森でも同様に整備活動を行っている」と説明を頂きました。解説の中で、「このような活動は、生態系サービスの維持を目的としている」と説明を受けました。

環境省によると、生態系サービスとは、「供給サービス」「調整サービス」「文化的サービス」「生息・生息地サービス」の4つに分類しており、食料の生産や大気質調整、生物の生息環境の提供、レクリエーションなどの生物多様性を基盤とする生態系から得られる恵みとしている。つまり、地域住民と協力して保全活動をしていくことで、子供たちの教育の場や自然体験場、環境保全施設など里山の生態系サービス機能を維持することにつながるということが考えられる。竹の伐採では、集まった人たちがそれぞれ伐採、枝切り、運搬、切断作業、バンブーチップ作りと分担して作業に取り掛かりました。自分はバンブーチップ作り以外の作業に従事しました。どの作業も大変でしたが、里山サポートクラブの皆さんに説明を受けつつ、日々のことについてコミュニケーションを行ったことで、活動を通して地域の方との距離を縮めることが出来ました。一番印象が強かったのは竹の伐採で、今まで経験したことがない作業であり、倒れる位置を調整しつつ伐採するには工夫を凝らして行いました。自分の目測以上に長い竹がバキバキと倒れるのは壮観で、貴重な体験になりました。

お昼近くに作業が終了したので、地元の人が用意してくれた食材を使用した餅入りけんちん汁や漬物を頂きました。寒空の下、作業を終えて冷え切った体が温まり、皆楽しそうに会話をを行う様子は、新型コロナによる影響が続く日々でも変わらないものであることを改めて実感しました。活動に参加し、良い結果を生み出そうと準備する人々の大変さを知り、その意識の大切さを学びました。地元に戻る機会があれば、地域の行事に積極的に参加していければと思います。

参考資料：環境省 自然の恵みの価値を計る-生物多様性と生態系サービスの経済的価値の評価



作業風景



門松教室用の竹

五味ヶ谷市民の森体験学習に参加した児童の感想文です。

里山サポートクラブのみなさまへ 栄小学校五年 加藤遼祐

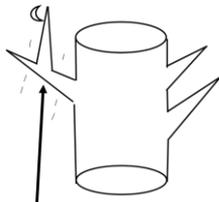
市民の森で竹ざいくを作ったり、ハンモックや森のたんさくなどの学習をさせてもらいありがとうございます。ぼくは人工で作った森なのに天然のなめこや竹林がたくさんあっておどろきました。たぶん、この森はとても大切にされているのだとおもいます。今の時代は建築物がたくさん建てられ森が少しずつ減少しています。僕は森で生き物とふれあうことが好きなので少しかなしいです。なので市民の森があってよかったなと思いました。

小彼岸桜と夢の感動

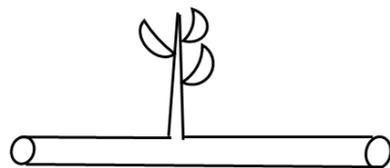
鶴ヶ島市に転居し市内を巡回しているうちに、鶴ヶ島市立運動公園の北側東西1kmに「小彼岸桜」が植栽されていてびっくりし、「夢の感動」でした。この桜より穂木を採集し「挿し木」をして苗を育成して、その後植樹を考へて「つるがしま里山サポートクラブ」に入会しました。会員の皆様の協力を仰ぎながら小彼岸桜の挿し木、苗の育成、植栽、苗木の無料配布、そして「フラッシュカット」（枝の選定方法）の普及と、1,000本植栽の目標に市内、県内の至る所に植栽を続けていきたいと思ひます。昨年は3年生苗を東市民センター広場に、斉藤市長の来席を仰ぎ地域住民に参加して頂いて記念植樹を行いました。



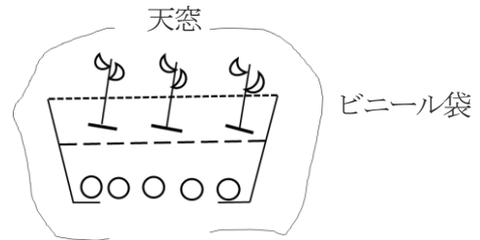
先ず「挿し木」の方法を説明します。穂木の採集を運動公園北側の街路樹の小彼岸桜の2年目の枝(図1)を切り落とし、新芽が出ている10cm~15cm伸長した芽をT字型に良く切れる鋏で切り落とし穂木(図2)とし発根剤を両端に団子状につけて根元方向の切口を下に向けて横差しとします(図3)。8号鉢の太温鉢の鉢底にゴロ土を入れて次に培養土(腐葉5、赤玉5)、その上に鹿沼土細粒(挿し木用)を5cmの層にし、そこへ挿し木(横差し)します。たっぷりの灌水をしておきます。湿度を保つためにビニール袋を被せ、天窓を15cm程度開けます。灌水は2日に1回程度様子を見ながら行う。鉢は絶対に移動しないこと、根元が動いた時は切口を再度強く押さえ込みます。こうして日夜管理を続けて8月頃になると、新芽が出始め、伸長してきて発根したことがわかります。この時追肥化成肥料(8.8.8)を1本に付き1粒ほど月1回施肥します。秋には紅葉も楽しめます。冬が過ぎ春に植栽します。クラブ員が丹精込めた2年生苗をクラブ員の農場に植栽します。皆の協力で黒マルチ(5穴)を使用3列で30cmおきに支柱を立てて植栽し、灌水はたっぷりで行います。新芽が伸長し脇芽が出た時に2芽(葉)を残して切除し消毒や追肥をして、秋の紅葉を楽しみます。そして翌年春には人の背丈ほど成長すると根巻して3年生苗として市内外に植えられ市民の皆さんの目に触れることになるのです。



(図1) 2年目の枝

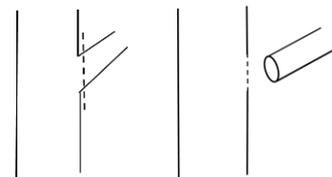


(図2) 穂木



(図3) 鉢植え

こうして育てた小彼岸桜を歩道に植えると枝が出て来るので、路面から2m以下の枝をフラッシュカットの方法で剪定をします。樹肌の切口はナイフで滑らかにし融合剤を塗布します。枝を切除してからカルスが毎年成長し、左右に進行して5~7年で綺麗に塞がります。この間融合剤は毎年塗布し続けます。尚荒剪定の切口はカルスの形成が遅く腐る方が先でやがて根元に達して枯れ死になることもあります。フラッシュカットでは主幹の付け根より切除するのでカルスの形成が幹の左右より進行して早くなり、切口の樹肌は綺麗に塞がり、春にはきれいな花が咲き誇るのです。こうして姿形の美しい小彼岸桜並木を次の世代に継承していきたいものです。



編集後記

「つるがしま里山クラブ通信」第3号をお届けします。今号では里山サポートクラブの活動が、毛呂山町や坂戸の城西大学、市内の小学校にも波及している様子を、手記の形で紹介しました。これからも活動の輪を拡げてまいりますので皆様のご支援をよろしくお願い致します。活動の予定はホームページにて公開いたしますので、是非ご覧頂き、ご参加ください。 ホームページ：<http://www.satoyamasupport.com/>